

小さなうれしさ

行田市立太田中学校

一年 高橋 心寧

私は、小学校六年生のときまで、全く税に興味を持ったことはありませんでした。しかし、六年生になったとき、「ドリームプロジェクト」という授業で「税理士」の方の話聞き、少し税のことを知ることができました。税にはたくさん種類があること、その税金は人それぞれの収入によって金額が変わること、税金が無くなるとたくさんの人が困ることなどを知ることができました。私が一番印象に残っているのは、「税金の無い世界」です。アニメのような感じで見せてもらうと、火事にあった家族が、生活に苦しみながらも消防士や消防署へのお金を払い続けるのを見て、税金はなくてはならないものなんだと感じました。今、私たちの暮らしには、税金が当たり前にあるものとなっています。そのため、最近「税金が無ければいいのに」「税金なんていらぬ」と考える人が増えていきます。私も税の勉強をするまではそう思っていたし、税金が何のためにあり、何に使われているかさえ知りませんでした。税の勉強をしてからは税金があることに不信感はなく、感謝の気持ちを抱くようになりました。自分や、家族の払っている税金が誰かのために使われたり、役に立ったり、誰かを救ったりしていると思うと何もしていかないけれど少し嬉しくなります。でもその度に税金が無く

なればいいのにといいながら生活している人に、この嬉しさや、税金の大切さ、税金が誰かを救うことなどを知ってほしいと思いました。それでも「そのために何かをしよう」などとは全く考えていませんでした。

しかし、この作文を書くことになって、私はじっくりと税についてのことを考える時間ができました。税金の大切さを再確認し、この小さな嬉しさなどをたくさんの人に知ってもらうためにはどうすればいいのかを考えました。私がいきついた考えは「税金を払い続け、その税金に救われている人がいること、私たちが税金に助けられていることに感謝の気持ちを持ち続ける」ということです。

税金を払い続けることで、誰かに直接私の気持ちが伝わるわけではないけれど、私が払った税金が誰かを救い、救われた人だけではなく、その家族、友人、知り合いが税金への感謝の気持ちを持つ、それが繰り返されることで税金の大切さがたくさんの人に伝わり、税金はいらぬと思う人が減り、うれしいと感じる人が増えると思います。私自身が税金を払い、税金に感謝することで小さなうれしさをたくさんの人に知ってもらうことができます。私はこれから、「小さなうれしさ」をたくさんの人に知ってもらうために税金を払い続け、感謝を忘れません。私に大人になったとき、この「小さなうれしさ」を知る人がたくさんいるといいなと思います。